

業務体験発表会原稿執筆要領

1. 目的

講演概要集の目的は、聴講者の便宜のため、かつ来場できない会員に講演内容を伝えるために作成します。したがって、執筆者は、体験した業務の目的、考え方、手法および結論等を、聴講者が理解できるように配慮して下さい。

今回から投稿は、原則論文形式とします。例外としてパワーポイント貼り付け書式を可とします。詳細は書式を参照してください。

2. データ書式

原稿は、Adobe Acrobat を用いて変換された、PDF ファイルで提出して頂きます。なお、小さな書式等の修正が必要な場合がありますので、作成された原稿を添付してください。印刷した場合のページ数がA4 判タテ型・2 ページ、4ページまたは6ページとなるよう原稿を作成して下さい。最後に通しでページつけますので原稿にはページ数を入れないでください。また、投稿するファイルはPDF 形式とし、圧縮ツールは使用しないで下さい。

作成したPDF ファイルの原稿は、Adobe Reader（アドビシステムズのホームページよりダウンロードできます）を用いて、執筆者の意図したとおりに印刷されることを確認して下さい。

PDF 化にあたっての解像度の設定は制約を設けません。ただ、印刷を考慮すると、テキストおよび白黒ビットマップ画像の解像度は1200dpi 程度、カラーおよびグレースケールのビットマップ画像（写真等）の解像度は300dpi 程度が目安になります。なお、編集の障害となりますので、PDF ファイルにパスワードの設定は絶対に行わないで下さい。

3. 使用アプリケーション

原稿作成に使用するプラットフォーム／アプリケーションソフトは問いませんが、最終的に投稿するファイルはPDF 形式（Version1.3互換）とし、Adobe Acrobat Reader 5.0から9.0で表示／印刷できるものとします。なお、作成したアプリケーションがワード以外の場合には修正等があった場合には修正をお願いすることになります。

PDF 化にはいくつかの方法がありますが、上記を満足する限り、執筆者の判断で適宜選択して頂いて結構です。

4. 用紙設定

A4 版・縦（210×297mm）とし、上下余白各18mm、左右余白各15mmを必ず確保して下さい。

5. 書式

横書き、48 文字／行、42 行／ページ程度を標準とします。本文の文字の大きさは10.5ポイント程度としフォントは、英数字；Time（Times New Roman）／Helvetica／Symbol／Century等を、日本語；明朝、明朝ゴシック等を使用して下さい。

日本語フォントにおけるギリシャ文字（σδε等）の使用は可能ですが、機種／フォントに依存する特殊文字（①，②，Ⅰ，Ⅱ，㎡等），半角カナおよびHG 系のフォントは文字化けの原因となりますので使用しないで下さい。上記は、異種プラットフォームにおけるファイルの互換性を確保するために必要です。

報文の書式は、「書式例」を原則とします。なお、書式例は所定の余白に設定されていますので変更せずにそのまま使用して下さい。

6. 表現方法

文字色は黒とします。図・表・写真等については色の制約はありませんが、白黒モニタ／プリンタに出力し

た際に問題が生じないよう配慮して下さい。なお、原稿の中に関連するホームページへのリンクを作成しても構いません。

7. 書き出し

原稿の1ページ目には、題目・所属診断士会名・勤務先・氏名・本文の順に書いて下さい。ただし、診断士会名は県名のみとする。法人会員で正会員または賛助会員登録していない場合には、所属診断士会名は「法人」と表示してください。

題名は第1行の中央に配置し、左側は後からの講演番号記入用にマージンから20mm程度開けるようにして下さい。次に1行あけて、所属診断士会名・勤務先・講演者名（連名の場合は発表者（前に○印を記入）、連名者の順。発表者は、JCDの会員に限ります。なお、連名は発表者も含めて最大4名以内）を右側に寄せて書き、1行あけて本文を書き出して下さい。

8. キーワード・連絡先

1ページ目最下段に罫線を入れ、キーワード（6語まで）および連絡先を記述して下さい。

9. 図・表・写真

図・表・写真等は原稿に張付けた状態でPDF化することとし、別ファイルにしないで下さい。

10. 原稿の取扱い

原稿ファイルは電子申込み時に同時に送信して下さい。ただし、何らかのトラブルで印刷原稿を再送していただく必要が生じる可能性がありますので、原稿ファイルは削除しないで保存しておいて下さい。なお、掲載された原稿は返却いたしません。

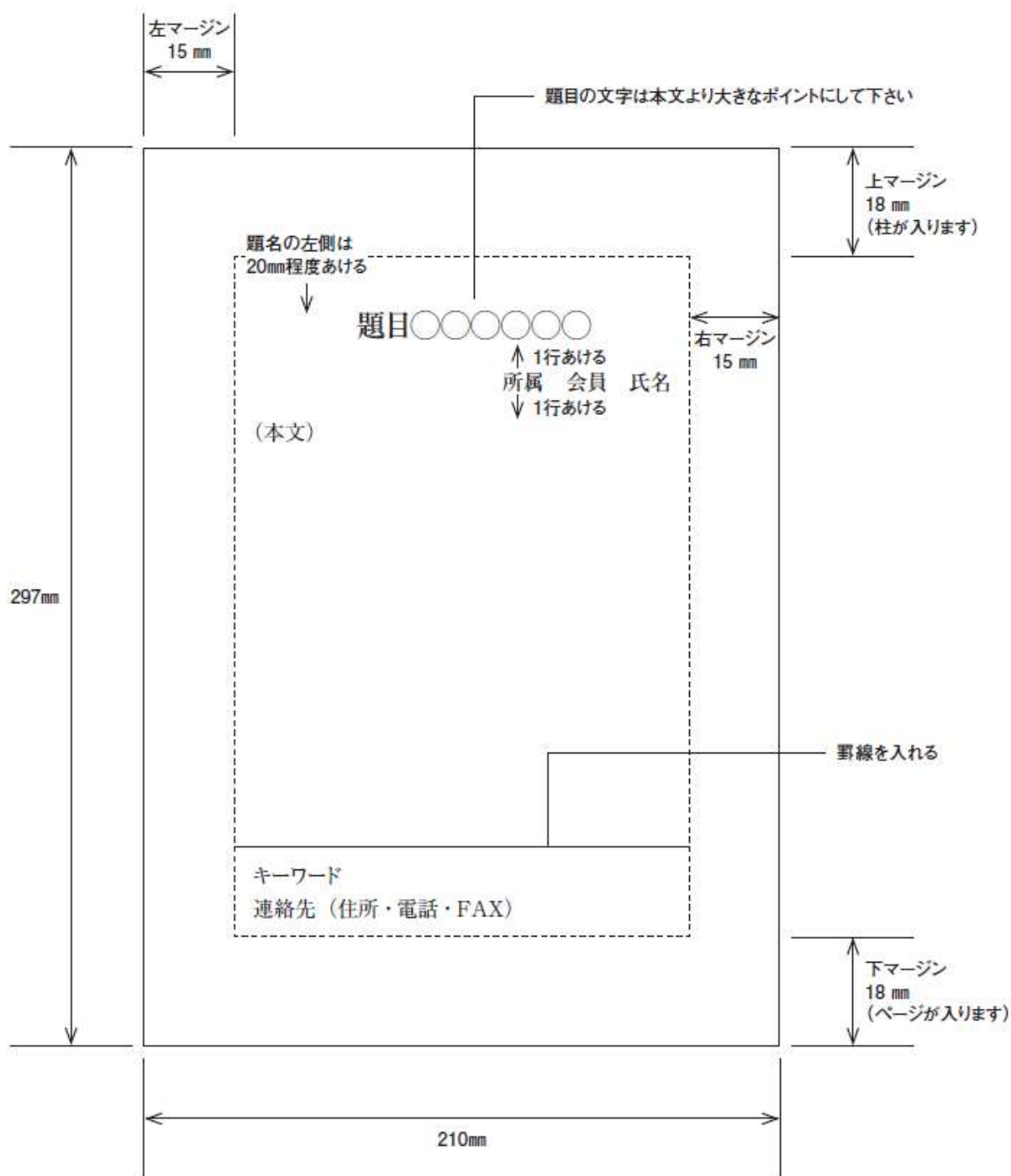
11. 原稿受付期間

受付期間：2016年11月7日（月）17時、提出先：一般社団法人日本コンクリート診断士会事務局
送信先のメールアドレスは下記です。

E-mail : info@jcd-net.or.jp

以上

(論文形式)：原則の書式例



注)点線の囲み枠は印字いただく範囲を示したものですので原稿には不要です。

キーワード例

[維持・管理] アセットマネジメント, 検査技術・診断, リニューアル (維持管理・補修・補強・更新)

[施工 (技術)] 施工計画, 施工技術, 情報化施工, 測量・計測, GPS, GIS, リモートセンシング, 技術開発, 新材料・新素材, 建設環境 (リサイクル), 河川構造物, 港湾・海洋構造物, 空港, 橋梁, 開削トンネル, シールドトンネル, 山岳トンネル, 地下構造物, ダム, 各種基礎, 特殊構造物, 耐震・免震, 鉄道

[土木材料] リサイクル, 新材料・新工法 (材料), 骨材, 混和剤, 混和材, フレッシュコンクリート, 高流動コンクリート, 水中コンクリート, 軽量コンクリート (材料), 吹付けコンクリート, 短繊維補強コンクリート (材料), 連続繊維補強コンクリート (材料), 海洋コンクリート, 特殊コンクリート, 物性, 評価・試験方法, セメント化学, 引張・圧縮, クリープ・収縮, ひび割れ, 温度応力, 製造・施工, 品質管理・検査, ポンプ圧送, 締固め, 維持管理, 劣化予測, 耐久性一般,

耐火性，複合劣化，鋼材腐食，防食，塩害，凍害，アルカリシリカ反応，非破壊試験法，補修・補強（材料），耐久性設計，副産物利用・再生材料，再生コンクリート，エコ・緑化コンクリート，リニューアル，ライフサイクル（LCC・LCA），サステナビリティ

[コンクリート工学／構造] 新材料・新工法（構造），軽量コンクリート（構造），短繊維補強コンクリート（構造），連続繊維補強コンクリート（構造），プレストレストコンクリート，プレキャストコンクリート，コンクリート製品，補修・補強（構造），破壊力学，曲げ，せん断・ねじり，耐震，振動，耐震補強，耐震診断，付着・定着・継手，疲労・衝撃，数値解析，構造設計，構造物調査・診断

書式例を次ページ以降に示しましたのでご利用ください。

(論文形式書式例) ○○橋梁の点検・診断例 (12P) → 題目は左から20mmから書き始める
(1行あける)

東京 診断士会事務局 ○山田 太郎
法人 建設コンサル 山田 二郎

(1行あける)

(本文) 書き始め

(2P分)

(例外の書式例)

タイトル：〇〇橋梁の点検・診断例 (12P)

(1行あける)

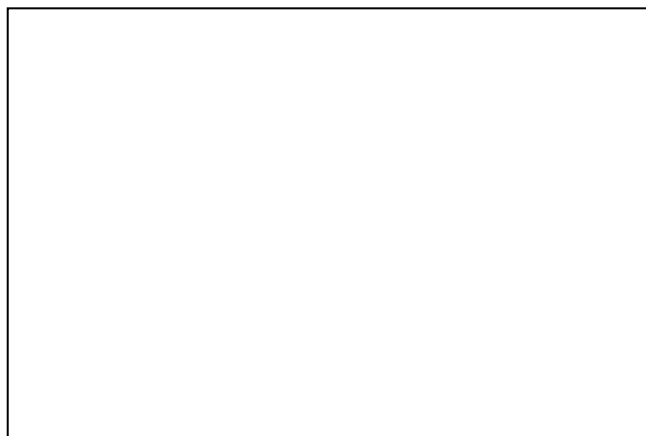
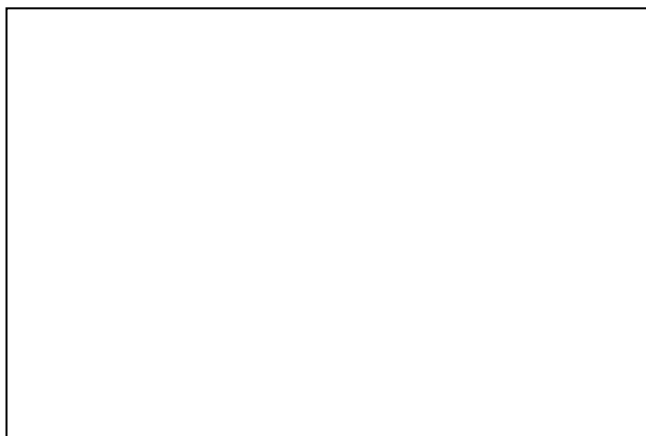
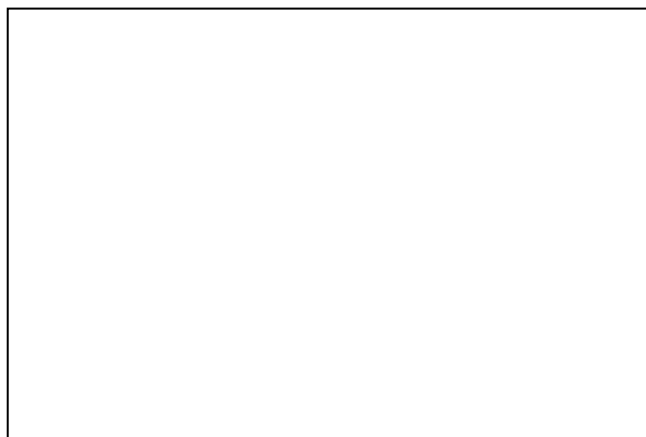
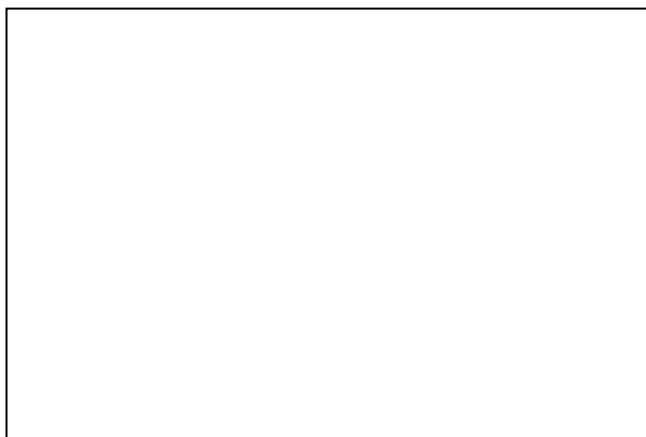
東京 診断士会事務局 ○山田 太郎
法人 建設コンサル 山田 二郎

(1行あける)

(要旨) 書き始め (10.5P)

(報告の内容がわかるように記述する。なお、文字数の制限はありません)

PPT の図他



(以下、偶数ページとなるように作成する。ただし、最大6ページまで。)